

令和5年度 第1回 静岡市立学校給食センター運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和6年2月7日（水） 午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 会 場 門屋学校給食センター（葵区門屋199）
- 3 出席者 （委 員）  
桑野稔子委員、坂井美文委員、栗田哲也委員、鈴木たずこ委員、杉本智恵子委員、内山健委員 （9名中6名出席）  
（事務局）  
朝比奈学校給食課長  
学校給食課職員（串、深田、海野、中山、竹野、荒木、望月）
- 4 傍聴人 な し
- 5 会議内容  
報告事項等
  - ①会長、副会長の互選
  - ②門屋学校給食センターの紹介
  - ③令和4年度学校給食課事業報告
  - ④学校給食課のウェブサイトについて
  - ⑤質疑応答

会長、副会長は互選の結果、会長は桑野稔子委員に、副会長は内山健委員に決定した。

議題「学校給食のウェブサイトについて」（学校給食課 串より説明）

静岡市の食育推進におけるウェブサイトの活用について

「しょっかんくんとおいしい静岡いただきます」は学校給食専用のウェブサイトで、令和5年3月から本格的に運用開始した。学校給食専用のウェブサイトの形式は他都市では例が少なく、静岡市の学校給食に関する情報全般を発信している。献立表のほか学校給食センターや単独調理校の情報が載った“ブログ”、食材などのことがよくわかる“おたより”、食に関する1～2分の“動画”が掲載されていて、子どもたちに給食に親しみを持ってもらい、理解を得る機会となることを目的としている。目指す姿としては、学校給食の市民への理解促進、保護者への情報提供、学校現場が活用できる食育の媒体の共有場所である。

静岡市の現状として、児童生徒数がおよそ 45,000 人、栄養教諭、栄養士が 28 人であるため、単純計算で栄養教諭、栄養士一人あたりおよそ 1,600 人の児童生徒に食に関する指導を実施しなければならないことになる。しかしこれは非現実的であるため、児童生徒に関わる教職員すべてが教育活動のあらゆる場面で食育を実施していく、という形になると、栄養教諭、栄養士は特に専門的な知識が必要な場面で登場する、こうなるといいなと考えている。

ただ、栄養教諭、栄養士ではない教職員に「食育をやってください」と言うだけでは当然現場は混乱してしまうと思うので、栄養教諭、栄養士が作った媒体をウェブサイトに置き、これを活用してより授業を彩り豊かにしていくということが今後の食育のあり方だと考えている。

そもそも、現場の先生方はあらゆる場面で食に触れてくださっている。たとえば家庭科、保健体育、生活科などはしっかり食育を絡んでくるが、理科や社会なども食育のきっかけとなるようなものはいくつも落ちている。しかし、それを先生方が食育として意識しているかは別問題である。先生方が「食育として使えそうだな」と感じたときにこのウェブサイトを活用することで、教科単元の目標を損なうことなく食育を実施できれば食育というものが浸透していくと考えており、ひいては、栄養教諭、栄養士の業務改善にもつながると考えている。

ウェブサイトの内容は、ブログでいくと日常の学校給食調理以外の事柄など様々な角度で学校給食を紹介している。こういった内容はこれまではそんなに大きく取り上げられることがなかったが、例えば、先生が給食の時間に話題にしたらこれも一つの食育であるため、そんな形で自然と食育が溶け込んでいけばいいと考えている。

他にも各学校のウェブサイト内で学校給食が取り上げられた際も学校給食ウェブサイトで紹介することで、学校給食現場の職員の励みにもなるし、子どもたちにも他校の学校給食の様子を知らせることができる。他にも実際現場でされている食育の様子、調理場の衛生管理など調理場内外の情報を発信している。

現在、給食ができるまでという 6 つの動画をアップしているが、使い方次第でいろんな教科で使えるようになっていく。2～3 分の構成になっており、給食時間に流すのにもちょうどいいサイズになっている。全部で 1,000 アクセスほどなので、再生回数をもっと伸ばしてよりたくさんの児童生徒に届けていきたい。

課題はウェブサイトの周知である。教職員に向けて、「食育は特に意識しなくてもできるもの」という意識改革をすることで、食育に対するハードルが下がると思う。より多くの人にウェブサイトを訪問してほしいので、アイデアがあったらいただきたい。

## 各委員からのご意見

### 内山委員

初めてウェブサイトをみた。若手の教員と見たが、ものすごいよくできているという感想

であった。レシピもおもしろく、動画など使えるものがたくさんあった。これをどうやって広げていくのかがポイントで、他の教科との連携ができるといいと思う。

ただ、現場は食育、消費者など、〇〇教育とつくものはたくさんある。学校給食課の思いとしては「食育を広めてきたい」という気持ちがあると思うが、食育“にも”なるとした方が気は楽になると思う。

#### 鈴木委員

初めてウェブサイトを見たが、ぜひお母さんたちと共有させていただきたいと思った。

わからないことを質問してその答えがウェブサイト上で返ってくるような市民との流れができればいいなと思う。

#### 杉本委員

子どもでもわかりやすい工夫がされているウェブサイトだと感じた。

PTAの会合や保護者会で担任が話題にすれば保護者は見ると思う。ポスターが貼ってあればポスターを目にした人が、じゃあ今度見てみようかなと思ってくれると思う。

#### 栗田委員

以前の会議でもこのウェブサイトについて意見を言ってきたが、当時の意見を取り込んでいただけており、非常にいい素材ができたのではないかなと思う。作っただけでは見てくれないというのは事実なので、どう広めていくのかが大事。一般の市民の方が見ても勉強になると思うが、まずは学校関係、PTA関係の方から見てもらうのが一番だと思う。

PTAでは保護者の見識を広める活動も実施している。いくつかの学校では学校給食について知ろうという活動もしていると思う。それをもう少し入りやすく、どの学校でも紹介しやすいようなやりかたがあったら、保護者にも広がるし、子どもにも広がると思う。

PTAの組織を活用した広め方を検討してもいいと思う。

#### 坂井委員

見ているのは保護者が多いと思うので、せっかくいいものができたのでより広く周知することが課題だと思う。今の子どもたちはTikTokなど短時間のものを見て情報を得るので、そういったこともできたらいいと思う。

#### 桑野会長

ウェブページの広報の仕方について委員からご意見をいただいた。他の附属機関（食教育推進委員会）でも得られた意見と併せて市はウェブページの工夫や周知の方法について検討していただきたいと思う。

市から（学校給食課 朝比奈課長）

まずはウェブページをどう広めるかが一番大事だと感じている。入りやすいもの（見やすいもの）に流れてしまう傾向にあり、じっくり時間をかけてウェブページを閲覧する人は少ないと思う。しかし、市がウェブページを選んだ理由としては、正確な情報をきちんと伝えていくという目的があるためである。そこをどう市民に伝えていくかが課題である。いろいろな媒体を活用しウェブページを広めていきたいと考えている。

今後は、このウェブページが一過性にならないように、コンテンツを継続していくこと、さらなる工夫をしていきたいと考えている。

桑野会長

ありがとうございました。

以上で本日の議事を終了します。

会議録署名人  
会 長